

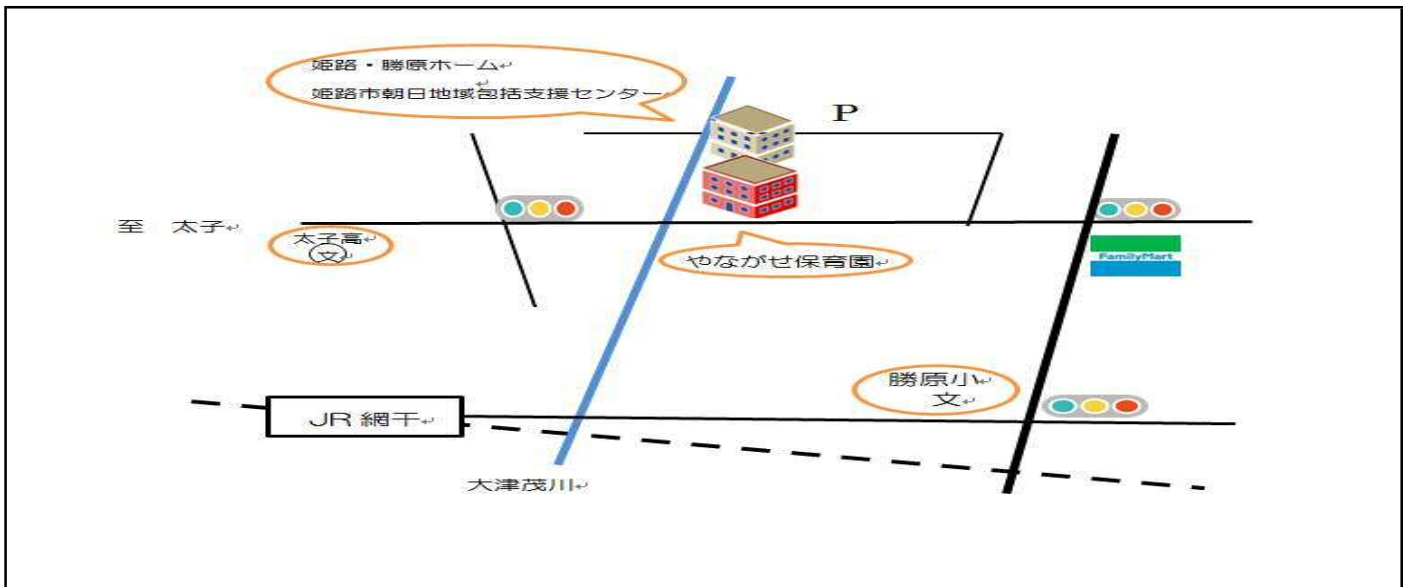
地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

【地域包括支援センター概要】

センター名称	朝日地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人やながせ福祉会
所在地	〒671-1201 姫路市勝原区下太田573
電話	079-273-1610
FAX	079-273-4321
ホームページURL	ホームページはなし

【センターの案内】

センターまでの交通手段	JR網干駅北口から徒歩約20分 姫路駅南口-はりま勝原駅-下太田 [神姫バス] 下太田車庫下車 徒歩5分 姫路駅南口-姫路南高校-JR網干駅 [神姫バス] 下太田車庫下車 徒歩5分
-------------	--



【センターが所在する地域の特徴・特性】

担当圏域(勝原校区、余部校区、旭陽校区)は姫路市の南西部に位置し、たつの市、太子町に隣接しています。住宅街と田園地帯が混在するほか、東芝姫路工場とその関連会社が連なる工場地帯でもあります。近年は、校区内で相次いで宅地開発がおこなわれています。

また、毎年10月21日、22日には兵庫県の無形民俗文化財に指定されている「提灯祭り」とも呼ばれる魚吹八幡神社秋季例祭が行われる地域であり、国指定文化史跡である瓢塚古墳がある地域でもあります。

現在、圏域内には高齢者の集いの場として、いきいき百歳体操開催会場が23カ所、認知症サロン開催会場が2カ所あります。コロナ禍ではありますが、どの会場も感染症対策に留意しながら開催できています。

また、介護サービス事業所として、居宅介護支援事業所が6カ所 訪問系・通所系サービス事業所が15カ所、施設系では特別養護老人ホームが2カ所、介護付き有料老人ホーム1カ所、グループホームが3カ所、サービス付き高齢者住宅等が5カ所あり、介護サービスが利用しやすい地域といえます。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

①新型コロナウイルス感染症予防に必要な対策を十分に講じ、地域の方が楽しみにしておられるいきいき百歳体操や認知症サロンなどの集いの場が継続できるよう後方支援に努めています。また、各会場のお世話人と相談しながら、フレイルチェックを順次進めています。

②チーム力の向上を目標にしており、相談業務や困難事例は、一人で抱え込まず、地域包括支援センター内で情報共有を十分に行い、複数人で対応するとともに適時、ケース検討を行っています。また、個々の専門的スキルアップを図るため、オンラインを活用した外部研修に積極的に参加しています。地域の高齢者の多様な生活課題には、自治会長や民生委員と連携を図りながらその解決に向けて動いています。専門職としての研鑽のため研修への参加を促し、参加していない職員とも研修内容を共有するため伝達研修を行っています。

【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

①地域の高齢者が、3年後も住み慣れた地域で生活ができるよう、現在の状態を維持します。

②高齢者ができる限り住み慣れた地域で自立した生活を続けることができるよう、自治会や民生委員等と連携します。

③その人が困っている課題に対して、介護保険サービスだけでなく、地域の保健・福祉・医療サービスやボランティア活動、多様な社会資源を活用します。

地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

センター名称	姫路市朝日地域包括支援センター
評価調査者名	本間隆司 竹中啓介 カ久恵弥

【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

地域住民からの認知症相談が増えており、地域資源と連携を図り、そのケースに応じて適切な医療や介護サービスが受けられるよう支援しています。認知症勉強会で参加者から認知症相談や生活相談があり、その都度家族を含めた相談を実施し、早期発見、治療などの適切な機関に繋いでいます。つながりのある地域づくりのために小さな相談でも足を運び顔の見える支援を継続され、ちょっとした困りごとについても地域支え合い会議を開催し、個別課題や地域課題の抽出に取り組んでいます。

【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

相談件数が増え、対応内容が多様化、複雑化している状況下において、関係先との日頃の顔の見える関係作りを育てていくとともに、連携の推進強化を図っていくことが望まれます。どこかの団体と団体をどう繋いでいくかが地域包括支援センターの役割であり、地域のケアパスを作って行けたらと思われま。地域包括支援センターがすべての社会資源と係わり、主体的に活動することを分担していくことが求められます。

【市民(住民)からの意見やコメント】

地域包括支援センターの活動内容や認知症について、若い世代への周知が地域の見守り体制の強化や、地域の理解度の向上につながると思います。また、あんしんサポーターなどの活動についても興味を持ってくれるためのきっかけづくりとしての役割を期待します。

【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

高齢化とともに認知症の相談や多様な相談が多くなり地域包括支援センター単独では解決できないことが多々出ています。関係先との顔の見える関係づくりを行い多様な社会資源を活用でき、必要な人につなげていけるよう取り組んでいきます。また若い世代にも地域包括支援センターの活動や認知症についての周知ができるよう取り組んでいきます。

		地域包括支援センターの体制確保	
		(基本的な考え方) 地域包括支援センターは地域包括ケアシステムのコーディネーターとして、高齢者分野の困りごとを地域で受け止める役割を果たすものであり、地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割として地域で認識されることが必要です。	
評価項目・着眼点		①	地域包括支援センターの周知 地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。
		②	専門性を生かした地域包括支援センターの運営 専門知識、対応力を備えたセンターのスタッフの確保と人材育成を図る。
		③	地域包括支援センターの業務の効率化に向けた取り組み オンラインミーティングをはじめとする業務のICT環境の整備や事業の整理・統合など、業務の効率化に向けた取り組み
センター記入欄	取り組みの状況	①あさひ通信を作成し各自治会や民生委員公民館等に配布しています。 ②現時点での退職者はなく体制は維持できている状況です。週1回のミーティングや月1回の包括会議にて情報の共有やケースの進捗状況等共有ができています。 ③ICT化の環境は現在整備中。コロナ禍よりオンライン研修は行っており以前より多くの研修に参加しやすくなりました。	
	現在課題と感じていること	相談内容が多岐にわたり地域包括支援センターのみでは対応できないことも増えており多くの事業所関係機関との連携が必須です。業務の効率化や働き方の見直し等世間では言われていますが地域包括支援センターは休日、時間外でも転送電話にて対応しており当番者は気が休まらない状況です。また若い世代の職員が少なく今後を担っていただく為には不安があります。新たに募集をしても人材が集まらない状況があります。	
	目標達成のための今後の取り組み	地域包括支援センターの周知等は自治会や企業・学校等への啓発も検討しています。新規職員を募集をしても応募のない状況があり、在職中の職員が勤め続ける為には、職員の働きやすい環境整備と地域包括支援センターのチーム力を上げていくことが必要だと考えています。抱え込まずチームで支援できるようお互いに思いやりながら、ケースの共有を図り時には同行しケース検討を行うよう努めています。	
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	独自にあさひ通信を作成し、各関係機関に配布され、横のつながりや連携の体制構築に努めています。最近では、相談内容が複雑化しており、解決が困難な事例が増える中、他事業所との連携を図る以外に、オンライン研修が普及したことで、働き方改革を進めることを目的に、多くの職員が自己研鑽並びに職員全体の質の向上に取り組まれています。	
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	法人内ICT環境を更に推進していただき、Wi-Fi環境の整備から、研修や会議の充実を図り、組織の強みを活かした取り組みが期待されます。	

評価項目・着眼点	基本目標1: 生きがいを感じながら暮らすための支援の充実	
	(基本的な考え方) 人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。	
		介護予防に関する認識の变革
	①	85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。 市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。
	高齢者が通える場があるまちづくり	
②	介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。	
センター記入欄	取り組みの状況	①「いきいき百歳体操」が立ち上がっていない地域の自治会、老人クラブに働きかけ、津市場公民館で「いきいき百歳体操」を立ち上げることが出来ました。 独居高齢者への訪問を行っている民生委員・推進委員の研修会において、フレイル予防としての低栄養予防についての啓発を行い、協力を依頼しました。 ②あさひ通信に「いきいき百歳体操」の情報を記載し、参加を促しています。最低3か月に1回は「いきいき百歳体操」の会場に行き、会場の代表と長期欠席者の情報を共有し、中断理由の明確化を図っています。
	現在課題と感じていること	あさひ通信を利用し、介護予防の意識が高くない高齢者を通いの場に誘導しようと努力をしているが、実際に誘導するのは困難と感じています。
	目標達成のための今後の取り組み	①社会福祉協議会が行っているサロンと協力し、フレイル予防の講座を行うとともに、サロンの参加者で「いきいき百歳体操」に参加していない高齢者に対して「いきいき百歳体操」の参加を促します。 ②「いきいき百歳体操」の長期欠席者の中で、地域リハビリテーション支援活動事業により復帰が見込める参加者に事業の活用を勧めます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	いきいき百歳体操や認知症サロンの場所へ毎月1回、顔を出され、参加者と地域包括支援センターとの見える化が図られています。また、参加者が欠席された際にも、世話人さんから、欠席理由や状況を報告いただいているなど、定期的に情報共有が図られています。民生委員が参加会場の代表者や世話人であることから、新しい参加者への呼びかけに柔軟に対応ができるなど、地域の強みをうかがい知ることができました。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	いきいき百歳体操に参加されていない方にも、定期的にフレイルチェックを実施するなど、更なるフレイル予防の推進に努めていただくことを期待します。

評価項目・着眼点		基本目標2: 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築	
		(基本的な考え方) 日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。	
		①	地域包括支援センターの相談機能強化
			地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。
②	世代や分野を超えた地域のつながりの構築		
	地域共生社会の実現に向け他分野との連携を強化する。		
センター 記入欄	取り組みの状況	①受け付けた相談の内容は、所属職員間で情報共有を行い、各専門職の視点から意見を出し合い、助言内容や対応方針をまとめるとともに必要に応じて、関係機関へつなげています。また、外部研修に参加した際には、他の職員に伝達研修を行い、内容を報告し、チームとしてのスキルアップに努めています。 ②民生委員宅など関係機関にあさひ通信を持参し、顔の見える関係を築いています。また、地域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーからの相談があった場合は、内容に応じて、各支援者が集まり、ケース会議を行っています。課題を整理し、解決に向けた取り組みを情報共有と共通認識し、行っています。	
	現在課題と感じていること	相談内容の複雑化、多様化により、当地域包括支援センターだけでは解決が難しく、行政や他の機関との連携が必要な困難事例に対応することが増加しています。 また、近隣住民と交流がなく、孤立している方の場合は、認知症や生活状況が悪化してから相談されるケースも増加しています。加えて、身寄りがない方々の支援に関しても増えており、地域住民の見守り等の協力が不可欠となっています。	
	目標達成のための今後の取り組み	①当地域包括支援センターの機能強化を図るため、主任介護支援専門員が中心となり、月1回の定例会議にて、自立支援の視点を踏まえつつ、事例検討会を行います。また、事例検討会を通じて、地域住民や他の機関との話し合い時に有意義な内容になるようにファシリテーション技術を習得し、コミュニケーション技術を高めます。 フォーマルサービス・インフォーマルサポートなど地域にある社会資源の整理を行い、随時、情報提供ができるようにします。	
評価調査者 記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	職員間でケース内容や必要に応じて2人体制で対応されています。対応が困難と思われるケースについては、姫路市生活援護室や西保健センターとも連携し、情報共有を図り、地域で見守りすることのできるネットワークづくりが構築されています。また、居宅介護支援事業所や病院、お弁当屋さんやタクシー会社からも様子に変化がみられた際の相談の件数が増えていると伺いました。	
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	地域資源の見える化並びに活用の更なる推進をしていただくことを目的にフォーマルサービス・インフォーマルサービスなどの変更があった際は、その都度見直しを行うなど、誰が見ても分かりやすい書式の作成が期待されます。	

評価項目・着眼点	基本目標3: 地域で暮らし続けるための支援の充実	
	虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。	
		多様なサービスの活用
	①	地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用する。
	②	地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み 地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などの取り組みを通して地域の支援体制の充実を図っていく。
	地域社会資源の開発とネットワークのための取り組み	
③	高齢者が地域で暮らし続けるための社会資源を開拓していくとともに社会資源との連携が出来るようになる。	
センター記入欄	取り組みの状況	①「いきいき百歳体操」や「認知症サロン」においてフレイルチェックを行い、後期高齢者医療保険課と連携し、口腔器のフレイル予防の講座を団地集会所で行いました。 ②通いの場で2回、地域支えあい会議を開催しました。 ③新たな通いの場として公民館で「いきいき百歳体操」の立ち上げを行った。また、民生児童委員・推進委員の研修会においてあんしんサポーターの案内を行いました。
	現在課題と感じていること	高齢者が地域で生活し続けるための資源として「あんしんサポーター」などのボランティアの需要はありますが、なり手が少なく、活用しにくさを感じています。
	目標達成のための今後の取り組み	①フレイルチェックを「いきいき百歳体操」の会場で行いつつ、後期高齢者医療保険課や姫路市在宅医療・介護連携支援センターと連携し、講座を行う機会を持ちます。 ②通いの場で地域の困りごとの相談を受け、地域支えあい会議を行うとともに課題を抽出します。 ③民生委員と協力し、自治会にあんしんサポーター制度を紹介し、ボランティアを募ります。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	いきいき百歳体操開催場所における代表者や、民生委員より、認知症者を発見若しくは情報を得た際、家族へ連絡する以外に、早期受診の必要性をお伝えし、地域で暮らし続けるための支援づくりに繋げておられます。地域支えあい会議では、課題の抽出を行うほか、金融機関やコンビニエンスストアとの連携を図り、支えあい会議以外にも、細かな話し合いが複数回開催されていると伺いました。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	通いの場に来られている対象者の家族との家族会や意見交換会を実施することで、問題の早期の解決や、地域の課題を更に見出すことができると考えられることから是非とも開催の実施に期待します。

評価項目・着眼点		基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現	
		認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防(認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする)に関する取り組みを推進します。	
		①	認知症にやさしい地域づくり 認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。
		②	認知症になるのを遅らせるための取り組み 高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。
セ ン タ ー 記 入 欄		③	認知症になっても地域で暮らし続けるための取り組み 認知症の種類や進行段階、生活環境に応じた適時・適切な医療・介護に提供が出来るようになる。
		取り組みの状況 ①地域住民からの認知症相談も年々多くなり、自治会・民生委員の方と連携を図り、認知症の経過に応じて適切な医療や介護サービスが受けられるように支援しています。また、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるように、認知症サロンや地域の集いの場で学習会を開催し、認知症の理解を深めたり、脳トレ等のレクリエーションを通してMCI予防に努めています。 ②高齢者のみではなく、より多くの方に地域包括支援センターの活動を知ってもらうために、あさひ通信を全戸回覧し啓発に努めています。	
評 価 調 査 者 記 入 欄		現在課題と感じていること ①認知症相談件数は昨年度新規相談約130件。うち警察対応案件が52件となり近年増加しています。独居や高齢夫婦世帯で、近隣住民の理解を得ながら支援が必要となるケースも増加しており、警察や住民の方を交えての地域支えあい会議の開催が望ましいケースも出てきています。 ②コロナ禍で地域活動や行事が激減していましたが、少しずつ認知症サポーター養成講座や認知症勉強会も開催されています。参加されている方からも認知症相談や生活相談があり その都度家族も含めた相談を実施し、早期発見、治療、適切な機関に繋ぎました。 ③あんしんサポーターでのゴミ出しの利用希望はありますが、サポーターの高齢化やサポーター数が少ないことから養成が必要だと感じています。	
		目標達成のための今後の取り組み ①つながりのある地域作りの為に、小さな相談でも足を運び顔の見える支援を継続していきます。また、ちょっとした困りごとに関しても小単位で地域支えあい会議を開催し、個別課題や地域課題の抽出を行っていきたくと考えています。 ②認知症サロンや地域の集いの場が継続して開催できるように、代表者の方々と協力して、地域の誰もが参加出来る楽しい色々な企画を考えていきます。 ③安心サポーターの登録人数が増え、活躍の場が広がるように普及啓発活動を行っていきます。	
評 価 調 査 者 記 入 欄		評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点 通いの場への訪問並びに地域への訪問は、認知症担当が保健師と管理者で、病院や薬局へ足を運び、顔の見える関係性づくりが行えています。地域住民からの情報提供により、認知症の方の発見から家族への報告など、認知症疾患医療センターの認知症外来へ繋いだ例もうかがえました。いきいき百歳体操後に認知症サロンを引き続いて行うことで、認知症の啓発活動のほか、活動者が継続して参加することができるようにレクリエーション活動の支援を積極的に行われています。	
		次のステップに向けた気づきや期待したい点 認知症サポーター養成講座の開催に向け、コロナ禍前の状況に少しでも近づけられるよう、学校や企業との連携を密に、認知症の方が住みよい地域づくりに向けた取り組みに期待します。	